

責任ある化学物質管理

102-11, 102-12, 102-15, 103-1, 103-2, 103-3

花王は、世界の人々が化学物質の恩恵を享受し、そのリスクが適切に管理される安全・安心な社会であることが大切だと考えます。この社会の実現に向けて、ESG(環境・社会・ガバナンス)活動を通じて「責任ある化学物質管理」を推進していきます。

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

化学物質は私たちの生活を育み、世界の人々の豊かな生活文化の実現に不可欠です。その反面、化学物質が人と環境に負の影響を与えてしまう側面もあります。

世界の化学品市場は、2030年には、2017年に対して倍増と言われており、化学物質の環境排出増加が見込まれています。

このことは、第5回国連環境総会(UNEA^{※1}-5,2021.02)でも取り上げられ、化学物質汚染が、気候変動、生物多様性損失とともに脅威として認識され、生活者にも不安が広がりつつあります。

しかし、UNEA-5では、これらの脅威は相互に作用し、共通の原因を有するため、総合的に取り組めば、互恵的な利益が生まれるとの提言がなされており、単なる削減ではない化学物質管理が求められています。

※1 UNEA
United Nations Environment Assembly

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

化学物質を適切に管理しない場合、ヒト健康、地球環境、社会への問題を引き起こすことがあり、事業の継続が困難になります。

「2030年のありたい姿」の実現に関わる機会

気候変動と生物多様性損失への対策を包括した「責任ある化学物質管理」を推進することで、サステナブル社会の実現に貢献し、社会的信頼を得る機会となります。

花王が提供する価値

私たちは、2020年までの国際的な目標であったSAICM^{※2}に沿って積極的に化学物質管理に努めてきました。この活動成果をもとに、2030年に向けたESG戦略Kirei Lifestyle Planの「責任ある化学物質管理」を中核とする新しい化学物質管理推進活動を開始しました。これらの活動と、社会的関心の高い物質への対応も可能な化学物質総合管理システムの応用・展開で、世界の人々が化学物質の恩恵を享受しつつ、リスクが適切に管理される安全・安心な社会の実現に貢献していきます。

※2 SAICM
Strategic Approach to International Chemicals Management

貢献するSDGs



責任ある化学物質管理 102-43, 404-2, 413-1

方針

私たちは、世界の人々が化学物質の恩恵を享受し、リスクが適切に管理される安全・安心な社会の構築に貢献したいと考えます。この社会の実現に向けてESG活動を通じて、「責任ある化学物質管理」を先導していきます。

「正道を歩む」を活動の原点とし、化学物質に関わる国際ルール、各国・地域の法規制、業界団体の自主基準等の本質やその価値観を理解し、以下の3つの活動を中心として自主的かつ戦略的に取り組みます。

①環境負荷低減製品・プロセスの開発

- ・製品ライフサイクル全体で環境負荷を最小化

②管理システム*を活用したリスク評価手法の最適化およびリスク評価・管理強化

- ・化学物質のリスク評価手法の最適化と、管理効率の向上
- ・化学物質による事故ゼロの実現と、地域社会の安全確保・安心の醸成

*物質情報、安全性情報、法規情報、数量・用途情報等

③有用性・安全性情報、取り組みの開示と継続的対話

- ・化学物質の有用性と安全性に関する情報をわかりやすく開示
- ・社会から信頼される企業になるためのコミュニケーション



責任ある化学物質管理推進の基本方針
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/saicm-policy.pdf



Kirei Lifestyle Plan -花王のESG 戦略->中長期目標

教育と浸透

化学物質管理の意識を高め、より正しい理解を深めるために、社員向けに教育や外部有識者の講演会等を継続的に行なっています。2021年度は以下の取り組みを実施しました。

- ・化学物質取り扱い関係者への化学品法規説明会
- ・製造現場での化学物質の危険性・有害性に関する教育
- ・外部有識者講演会「資源循環と物質管理～持続可能な社会に求められる視点と動向から考える～」

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

生活者を含むステークホルダーが、化学物質をより安全に使用し、安全で安心して暮らすためには、相互理解が不可欠です。私たちは、化学物質のリスクに関する情報をステークホルダーと共有し相互理解すること(リ

スクコミュニケーション)で、お互いの信頼と安心を育てられるよう、継続的に取り組んでいます。

1. 生活者との連携 / コミュニケーション

製品を安全に安心してお使いいただくため、化学物質のリスクに関する情報についてコミュニケーションを継続しています。

- ・大学の講座と協働

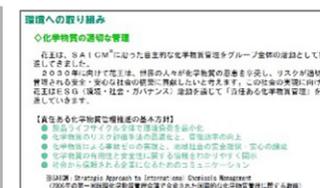


埼玉県環境部および日本工業大学と協働し講座「環境コミュニケーション」を開催
www.nit.ac.jp/topics/2021eco_com

武蔵野大学薬学部の講座「化粧品概論」に協力
www.musashino-u.ac.jp/academics/faculty/pharmacy/pharmaceutical_sciences/curriculum.html

- ・地域住民とのコミュニケーション

工場周辺の皆さまに安心して暮らしていただくため、国内工場では工場サイトレポートを通じて、工場では取り扱う化学物質に関する取り組みを継続的に発信しています。



責任ある化学物質管理推進の基本方針を記載した、和歌山工場のサイトレポート

責任ある化学物質管理 413-1

2. 顧客・代理店との連携

私たちは、サプライチェーンを通じて化学物質を安全に取り扱い、化学製品がもたらすベネフィットを最大限に引き出すため、顧客・販売代理店と情報共有および管理に取り組んでいます。

含有化学物質情報の提供

経済産業省が主導して開発した製品含有化学物質情報伝達スキーム「chemSHERPA^{※1}」を業界に先駆けて採用し(2017年9月)、工業用製品に含まれる化学物質の規制情報等をサプライチェーンで活用する取り組みを継続しました。

※1 chemSHERPA

製品に含有される化学物質を適正に管理し、拡大する法規制に継続的に対応するためのサプライチェーン全体で利用可能な新しい情報伝達共通スキーム。

SDS^{※2}および製品ラベルのGHS対応

工業用製品が現地の法令に基づき適正に使用されるように、各国・地域のGHSルールに対応したSDSを発行し、製品ラベルを貼付しました。

※2 SDS

Safety Data Sheet

化学製品を安全かつ適切に取り扱うために、製品に含まれる物質名、危険有害性情報、取り扱い上の注意などに関する情報を記載した書類。

専用ネットワークによる情報提供・情報交換

工業用製品の販売代理店との専用ネットワークを活用して、オンラインでSDSやchemSHERPA-CI^{※3}などの情報を提供し、情報交換会^{※4}を開催する等、サプライチェーン上での化学物質管理の推進を継続しました。

また、10月には販売代理店の新入社員を対象に隔年実施の研修会をオンラインで開催し、化学物質管理について説明を行ないました。

※3 chemSHERPA-CI

特定の化学物質情報を伝達するための化学品データ作成支援ツールおよびその帳票。

※4 オンライン開催を含む。

3. 行政との連携

化学物質に関わる規制当局の信頼を深め、化学物質を取り扱う企業としてより適正な化学物質管理を推進するため、行政機関等と4回の情報交換を行ないました。

テーマ: ESG投資金融、化学物質管理の今後のあり方、法改正、情報伝達と活用

4. 産業界との連携

産業界の化学物質管理の取り組みに貢献するため、さまざまな活動に参加しています。

EUの「持続可能性に向けた化学物質戦略」に基づき、2021年にREACH規則、CLP規則および化粧品規則の

改正に向けたロードマップやアセスメント結果が公表されました。私たちは、将来の事業への影響を最小化すべく、主要な役割を務める業界団体を通して、行政とのコミュニケーションなどを行ないました。

このほか、産官学の国内キーパーソンによる対話の場を企画して新しい化学物質管理のあり方についての認識を共有し、その内容を論文や講演会で社会に広く紹介しました。この取り組みを通じて、社会からの信頼醸成と企業価値向上に努めました。



日本学術会議 安全工学シンポジウム講演・総合討論(講演と企画)

www.scj.go.jp/ja/event/2021/312-s-0630-0702.html

水環境学会誌「WSSD2020年目標後の新たな化学物質管理に向けて」投稿
www.jswe.or.jp/publications/journals/contents/2021/pdf/mokuji_44_08.pdf

Chemical Watch 講演(3回)
events.chemicalwatch.com/200528/global-business-summit-europe-north-america-and-asia-2021/programme

events.chemicalwatch.com/270749/key-regulatory-updates-europe-asia-and-the-americas/programme

events.chemicalwatch.com/270750/the-eu-chemicals-strategy-for-sustainability-one-year-on/programme

責任ある化学物質管理 102-20

体制

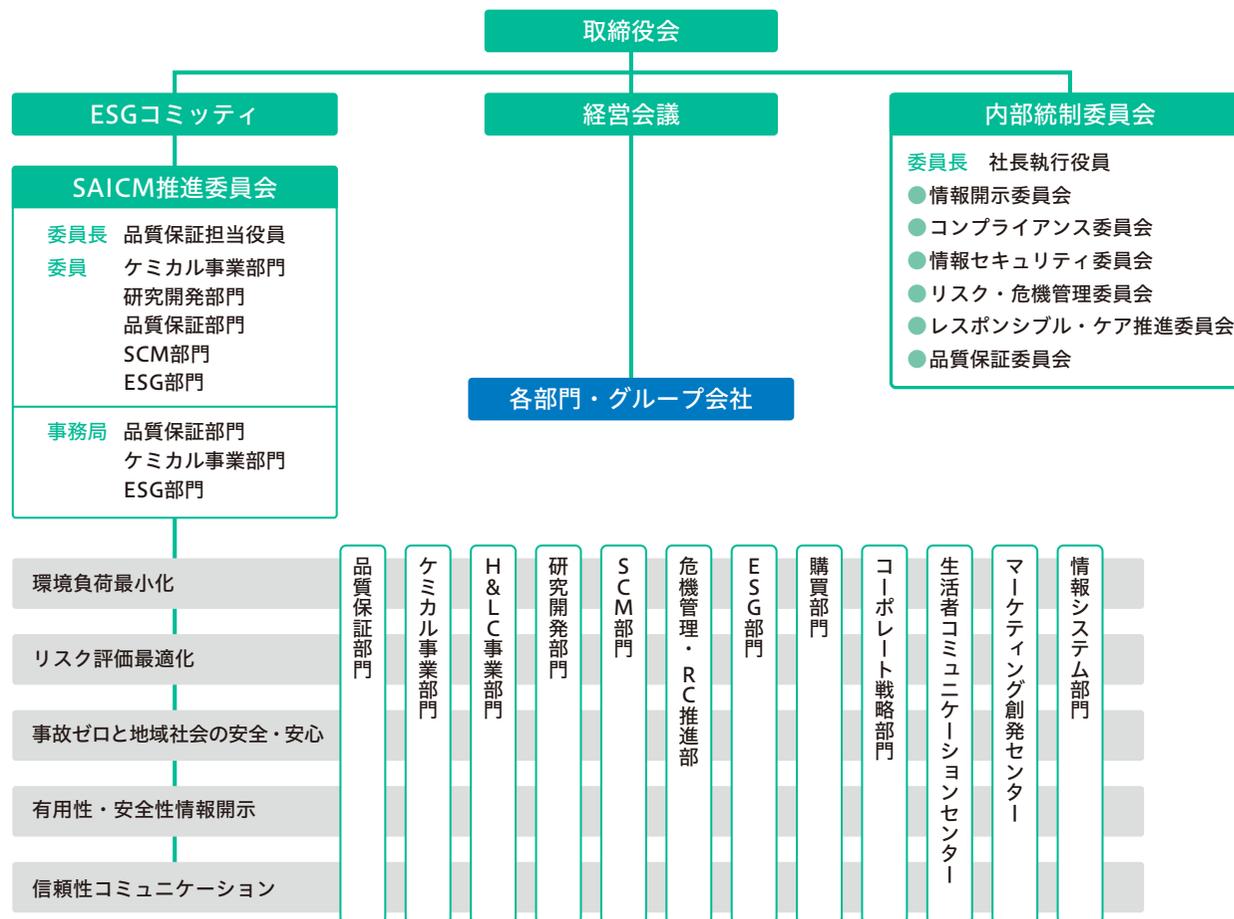
「責任ある化学物質管理」のほか、「より安全でより健康な製品」「徹底した透明性」など、化学物質に関する Kirei Lifestyle Plan を設定しており、目的ごとに適切な部門が実行し、いつでも連携ができる体制を整えています。

本章の「責任ある化学物質管理」は、社長執行役員が委員長を務める ESG コミッティのもと、化学物質管理に関する国際目標に戦略的に取り組む委員会として 2012 年に発足した「SAICM 推進委員会」が活動主体です。

SAICM 推進委員会は、品質保証部門担当常務執行役員が委員長を務め、推進委員は主要な部門から選出されており、提案された取り組みは各部門の日々の業務に反映されています。決議事項は ESG コミッティ、経営会議、執行役員会のいずれかの場において、年 1 回以上報告し、意思決定の確実なプロセスを維持しています。

この委員会では主な推進活動として 2021 年から新たに 5 つを掲げ、それぞれに対応するチームを設置して活動を推進しています。各チームのミーティングに加え、年に 3~4 回開催される SAICM 推進委員会では、計画、進捗報告、見直しのほか、新規課題への提案・議論や外部有識者を招いた講演会も開催しています。

責任ある化学物質管理活動推進体制



※2021年12月現在

責任ある化学物質管理 102-11

中長期目標と実績

1. 中期目標/2030年長期目標

私たちは2030年目標の中間点として、グローバルで存在価値ある企業“Kao”を実現する中期経営計画K25を策定しました。その筆頭の「持続的社會に欠かせない企業になる」においては、地球環境問題解決への取り組みは不可欠です。「正道を歩む」を活動の原点と考え、「責任ある化学物質管理」の実現を通じて持続可能な形で事業活動を発展させるため、2030年までに達成すべき目標を以下に定めました。

①環境負荷低減製品・プロセスの開発

原材料調達から開発、製造、販売、使用、廃棄・リサイクルまで製品ライフサイクルの全段階において化学物質に係る環境負荷を最小化するモノづくりを社會に提案し、社會と協働してその実行を促進し、持続可能な社會の実現に貢献します。

②管理システムを活用したリスク評価手法の最適化およびリスク評価・管理強化

最適な化学物質のリスク評価手法を開発し、管理システムを駆使して、実際のリスク評価と管理強化を促進します。工場では事故ゼロを実現し、地域社會の安全

確保・安心の醸成をめざします。また、リスク評価手法最適化研究の成果と評価結果を社會と共有し、化学物質のリスクが社會全体で適切かつ効率的に管理されることに貢献します。

③有用性・安全性情報、取り組みの開示と継続的対話

化学物質情報と花王の具体的な取り組みの情報を正確にわかりやすく発信し、ステークホルダーと継続的なコミュニケーションを行なうことで、化学物質に関する社會の信頼・安心を醸成します。

こうしたアプローチに対し、指標を策定し、2020年より公表しています。

〈指標1〉安心して使い続けられる製品・原料の有用性と安全性情報の公開率

〈指標2〉事業拠点において、原材料調達から廃棄までを考慮し、健康・環境・安全への影響を管理できた比率

➔ Kirei Lifestyle Plan -花王のESG 戦略-> 中長期目標
P24

2. 中長期目標を達成することにより期待できること

①サプライチェーン全体で環境負荷を最小化した製品を継続的に市場供給することで、社會全体で化学物質の環境負荷を低下させることができます。

②行政機関、業界団体と、リスク評価法最適化研究成果とリスク評価結果を共有することで、花王のリスク評価手法が社會に普及し、社會全体の化学物質管理の強化と効率向上が期待できます。

③生活者、顧客、社員、流通、行政等、幅広いステークホルダーへの化学物質情報の開示とそれを利用したコミュニケーションの充実により、化学物質とその含有製品の理解が深まり、正しい取り扱い方法の普及が進むことによって、社會の安全・安心と信頼が醸成されます。

3. 事業インパクト/社會インパクト

事業インパクト

環境負荷低減型製品を開発し、市場に投入し続けることで、環境対策製品市場でのシェアが拡大し、持続的な事業の成長につながります。

社會インパクト

私たちは、産官学との連携を一層強め、化学物質管理の取り組みを社會と共有・協働していくことで、人々の安全・安心の確保や、環境を含むさまざまな社會問題の解決に貢献していきます。

責任ある化学物質管理

2021年の実績

2021年の計画に沿って活動しました。製品・プロセスの開発、安全性評価、現場のリスク管理を通じて化学物質によるリスクを最小化し、情報開示・対話を通じて化学物質に対する社会の信頼と安心につなげる取り組みを継続しています。

①環境負荷低減製品・プロセスの開発

・サステナブル原料の利用向上とLC-CO₂削減、節水、廃棄物削減に貢献する製品を開発

②管理システムを活用した、リスク評価手法の最適化およびリスク評価・管理強化

- ・花王優先評価物質の選定基準を見直し、今後10年間のリスク評価物質を選定
- ・生物多様性保全のための環境RNAを用いた生態調査の高精度化について論文発表
- ・花王の工場で化学物質のリスク管理を強化するため、化学物質に関連した環境安全情報を一元管理するシステム構築に着手

〈指標〉事業拠点において、原材料調達から廃棄までを考慮し、健康・環境・安全への影響を管理できた比率

事業拠点において、原材料調達から廃棄までを考慮し、健康・環境・安全への影響の管理(GHS表示、SDS更新、リスクアセスメント)を継続し、花王工場96%達成。

③有用性・安全性情報、取り組みの開示と継続的対話

- ・化学物質のリスクや有用性を正しく理解するためのコンテンツを作成
- ・化学物質への不安と期待が高まる中、生活者の思い、その背景、解決するための対話方法の調査を開始

〈指標〉安心して使い続けられる製品・原料の有用性と安全性情報の公開率

2019年に評価を行なった花王優先評価物質の安全性要約書3件(2030年までの目標に対し公開率14%)、ケミカル製品のGPS 安全性要約書28件を開示。



3カテゴリ:アミドプロピルベタイン、ソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルベート脂肪酸エステル
chemical.kao.com/jp/sustainability/saicm/article_05/



化学物質に関する取り組みで日本化学工業協会の「JIPS賞」を5年連続で受賞
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics/sustainability-20210518-001/

・環境課題解決に向けた化学物質に関する意見交換を大学生と実施



ステークホルダーとの協働/エンゲージメント

P245

・社会的に関心が高い成分に関する方針および香料成分名を開示



快適な暮らしを自分らしく送るために>より安全でより健康な製品

P56



正道を歩む>徹底した透明性

P168

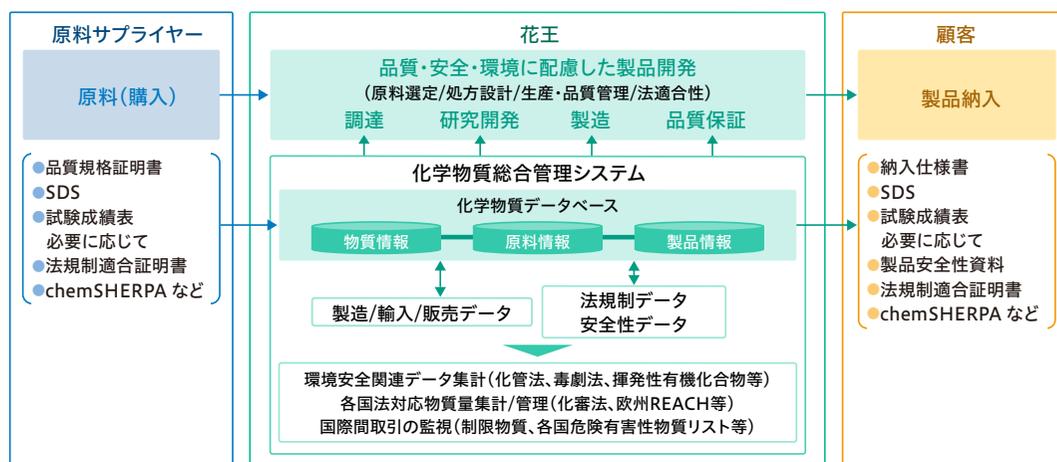
以上の取り組みにおいては、化学物質総合管理システムを応用・展開し、安全性評価、数量管理、法規や社会的関心の高い物質等の情報の管理と開示に努めました。

責任ある化学物質管理 102-11, 102-15

化学物質総合管理システムでは、工業用製品から家庭用製品に至るまでの多様な製品に含まれる原料の情報をデータベース化し、製品ごとにどのような品質、安全性、防腐性、法規制情報などを持った原料が使われているかを確認できます。万一、原料に問題が発生した場合、あるいは新たな懸念物質などが発生した際は、影響範囲を迅速に特定し、適切な対応ができるようになっています。

化学物質に対する規制のグローバルでの変化や、事業分野・エリアの拡大に対応すべく、製品中の化学物質に関わる最新の情報管理をめざしたシステムのさらなる機能強化を継続しています。

化学物質総合管理システム



実績に対する考察

化学物質管理に関する取り組みにおいて、2030年に向けて体制を刷新し、活動計画を策定するとともに、2021年の計画を確実に実行しました。特に、情報開示と対話による社会からの信頼向上に努め、その成果は、各賞の受賞につながりました。また社会の関心の高まりや科学技術の進歩に応じた新規課題(たとえば環境RNAに着目した生物多様性保全のための高精度な生態調査方法の確立)にも積極的に取り組みました。

国際的には、化学物質と廃棄物の適切な管理に、野心的に、より多くのステークホルダーが参画することが求められています。

それぞれの活動を融合させ、かつ社会との連携を通じて、包括的に課題解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

責任ある化学物質管理 102-43

具体的な取り組み

活動トピック

化学物質管理の社会実装に向け、産官学対話の場を創出

2021年は、気候変動や生物多様性がクローズアップされたほか、化学物質管理に関する国際目標のポストSAICMが国内外で議論されました。個社だけでは解決できない化学物質の諸々の課題に、より野心的に、ステークホルダー一丸となって取り組むことが求められています(BMU(ドイツ連邦環境省)、2021)。

日本の産官学のこれまでの成果と課題を次の10年の取り組みにつなげ、化学物質管理の社会実装を図るため、第51回安全工学シンポジウム(主催:日本学術会議)で、2030年に向けた課題と対策を議論し、一定の共通認識に至りました。花王は登壇者およびオーガナイザーとして参画し、企画、対話の場の創造、共通認識の調整と結果の文書化を行ないました。



第51回安全工学シンポジウム
www.scj.go.jp/ja/event/2021/312-s-0630-0702.html

〈議論を通じて至った共通認識〉

目標:規制なしでもサプライチェーンでモノが循環し、情報が価値伝達され、知見が継承される次世代体制を官民連携でつくり、自律的に活用する

背景:

- 社会・環境の変化、多様化の中で規制の限界、自主管理への期待増加
- 製造から廃棄・リサイクルまで、化学物質ライフサイクルの循環の必要性

この成果とこれまでの取り組み実績が認められ、日本リスク学会から、SAICM推進に係る産官学ステークホルダーに対して、グッドプラクティス賞が与えられました。



日本リスク学会グッドプラクティス賞(SAICM社会実装)
www.sra-japan.jp/cms/award-2021/



私たちは、これらの成果について海外講演等を通じて発信しました。



“Perspectives from Japanese government and industry toward 2030 based on the well-balanced regulations and self-initiatives”
events.chemicalwatch.com/270749/key-regulatory-updates-europe-asia-and-the-americas/programme

責任ある化学物質管理 102-44

ステークホルダー・エンゲージメント



北野 大氏
秋草学園短期大学 学長

昨年のご意見を受けて

2021年には北野先生から、工場近辺の地域住民や生活者を対象とする新しい形のコミュニケーションの開催および小中学校の生徒を対象とする化学物質安全教育について期待をいただきました。

これに対し、国内工場のサイトレポートに2020年以降の化学物質管理の取り組みを記載し、周辺住民の皆さまとの対話を継続しました。また、次世代につながる教育の支援として、まずは大学生を対象として、1月に武蔵野大学、7月に埼玉県環境部・日本工業大学と協力して、大学生との化学物質コミュニケーションを行ないました。さらに、化学物質管理の社会実装に向け、一般公開の産官学の対話の場を企画、新たな連携を議論し国内外に発信しました。

今後も、家庭品と工業化学品を取り扱う企業としての責任を果たすべく、化学物質管理を進めていきます。

「責任ある化学物質の管理」に向けた新たなアプローチへの期待

2021年11月、日本リスク学会から「SAICMによる化学物質の包括的リスク管理の社会実装」に対し、SAICM推進に係る産官学ステークホルダーの皆さまがグッドプラクティス賞を受賞されました。特に産に関わることとしては、貴社が2012年よりSAICM推進委員会のもとで実施してきた3つのプロジェクト成果が大きな寄与をしたと思っています。

さて、2030年めざす姿を実現するため以下の5つのアプローチが発表されました。

1. 製品ライフサイクル全体で環境負荷を最小化
2. 化学物質による事故ゼロの実現と、地域社会の安全確保・安心の醸成
3. 化学物質のリスク評価手法の適正化と、管理効率の向上
4. 化学物質の有用性と安全性に関する情報をわかりやすく開示
5. 社会から信頼される企業になるためのコミュニケーション

これらのいずれもが「責任ある化学物質の管理」には重要なことは言うまでもありません。

本稿では特にSDGsの面から1. と5. について著

者の意見を述べさせていただきます。

「環境負荷」とは環境基本法では、「人の活動により、環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるものをいう」としています。環境保全上の支障の原因には大気汚染や水質汚濁などのいわゆる公害問題ばかりでなく、資源の枯渇性も含まれます。

具体的には生分解性を持った製品の開発および再生可能な原料、リサイクル材料などサステナブルな原材料に転換していく必要があります。

また、化学物質の有用性を最大限に発揮し、賢く使用するためには製造側の努力に加え消費者側の参加が必須です。そのためには4. とともに5. のコミュニケーションに基づく信頼の確保が最も重要な事柄です。幸いに貴社の製品に対する消費者の信頼度はその売上高から見ても高いものと考えられます。

これからの消費者は価格よりも確かな品質、それは性能面ばかりでなく環境負荷の視点も含められた商品選択がなされていきます。

上記の5つの方針の成취に向け、トップランナーとしての皆さまの努力を期待しております。